

# 同窓会報

## 同窓会長挨拶



同窓会長  
粕谷 政行

同窓会会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、同窓会活動にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、二〇二〇年二月、新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活はそれまでには考えられないほどに変化しました。母校の渥美農業高等学校も三月二日から期限付き休校を迫られ、五月下旬からクラスを二分し交互に登校する分散登校を経て、ようやく通常カリキュラムに戻ったのは六月中旬でした。その後も各実習、学校行事は縮小あるいは中止を余儀なくされたようです。私は病を患い会長代行を本会副会長の西山さんに託した状態でしたが母校のことは一時も意識から消えたことはありませんでした。私が母校に望む理想的な教育環境とは、生徒一人ひとりが自己実現を目指し、「安全」で「自由」のびのびと「勉強や部活動及びその他活動に取り組み、「生徒対生徒、生徒対教師間での信頼関係を育む」ことの出来るものであると考えます。ところが感染の恐怖から逃れられない毎日を生徒も先生方も過ごしています。この状態を打開すべく努力をされておられる生徒諸君と先生方に敬意を表すものです。

すでに会員の皆様にはご案内の通り二〇二〇年は、渥美



発行  
愛知県立渥美農業高等学校同窓会事務局

TEL 053 1122-10406  
FAX 053 1122-16462

農業高等学校創立七十周年の節目の年です。七十周年を記念し、校章のミツバチをデザインした本校の公式マスコット「ふぁにー」を設定しました。これは、生徒会発案の事業として行いました。また、二〇二二年二月二十八日に「創立七十周年記念事業 目録贈呈式並びに功労者表彰式」を田原市長の山下様にご臨席いただき開催しました。会場へは新型コロナウイルス感染症の感染防止措置として生徒の入場制限を実施したため、翌日に卒業を控えた三年生のみを参列となりましたが、同窓会入会式も同日行ったため、印象深い式になったのではないかと思います。

二〇一九年七月から会員の皆様にはご支援を頂戴しました。また、二〇二〇年十二月からは記念事業に賛同していただける近隣の企業の皆様からもご支援をいただきました。このことに対し厚くお礼申し上げます。部活動振興と国際交流事業に使わせていただきます。このことにより母校の後輩たちが学校生活に少しでも彩りを感じていただければうれしく思います。

最後に、渥美農業高等学校がますます発展されることを祈念申し上げます。

## 校長挨拶



校長  
鈴木 尚

日によっては陽ざしが暖かく季節は少しずつ春めいてく

るこの頃、渥美農業高等学校同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃は、母校の教育活動にご理解と多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

本校は、本年度に創立七〇周年を迎えました。現在記念誌の発行準備を進めているところであります。同窓会の皆様には物心ともに御支援いただいておりますこと、改めて感謝申し上げます。

学校における新しい学習活動の取組としては、東三河地域県立高校を対象としたプロジェクトの一つとして、『あつみ次世代農業創出プロジェクト』（二〇二〇～二〇二四年度の五年間プロジェクト）がスタートしました。このプロジェクトでは、技術革新に対応し、環境に配慮しながら持続可能な農業に取り組みます。また、GAP教育や六次産業化への取り組みを充実させ、世界を視野に入れた新たな農業経営にチャレンジします。現在、最新の技術を取り入れたスマート温室ではイチゴの水耕栽培研究を行っています。GAP教育では、豚の飼育工程においてJGAPを取得し、さらにミニトマト栽培とキク栽培においてGGAP申請を行い、キク栽培での取得は、日本初の快挙となります。生徒たちの努力と頑張りを称えます。

本年度は、感染症による影響が学校教育活動に大きく押し掛かりました。しかし、歩みを止めるわけにはいきません。渥美農業高校の使命は、地域農業を支えていく若人を育成すること、また、農業を深く理解し、地域社会に貢献できる若者を輩出することにあります。七〇年間脈々と受け継がれた校風と伝統をより深化させ、本校で学ぶ生徒たちが、高校生活を謳歌し、躍動できるように教職員一丸となって邁進していきます。

おわりになりますが、本校同窓会の益々の発展と会員の皆様方のご活躍、ご健勝を祈念しますと同時に、これからも母校の教育活動へのさらなるご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

# 祝伴浩志 元校長先生 愛知農業賞に輝く

元校長 伴 浩志先生が、永年の農業教育への実績が認められ、愛知県の農業・農村の振興や発展に顕著な貢献をした個人や団体に對して、その功績を称え表彰する公益財団法人愛知県農業振興基金の「愛知県農業賞（あいちアグリアワード）」を受賞された。

同賞は、平成十八年度から実施している農業振興功勞者表彰事業で、今年度で十五回目を迎え、「担い手育成部門」一名、「技術改善部門」一名、「農業・農村振興部門」一名が受賞された。この中で、伴 浩志先生は農業教育の実践等通じ、担い手の育成に大きく貢献したとして「担い手育成部門」で選ばれた。

表彰式は、令和二年十二月二十五日（金）午後二時から名古屋市中区、JAあいちビル十四階大会議室で行われ、県農業振興基金 鈴木才将理事長より表彰状が授与された。その後、受賞者記念講演が行われ、先生の農業に對する情熱とお人柄を感じさせるすばらしい講演であった。受賞事由要旨は、以下のとおりである。

伴 浩志氏は、昭和五十三年から教諭として愛知県立安城農林高等学校に赴任した後、平成元年より平成二十八年まで主に渥美農業高等学校に勤務しました。「常に問題意識を持って、自ら築く農業にのみ未来はある」との信念を基に生徒を指導し、「農業の魅力と夢を教えたい」と地元農業高校をその象徴かつ実践的な存在となるようオランダ姉妹校派遣研修や同校農業担い手育成基金の創設など教育カリキュラムを超えた活動に尽力しました。また退職後は、愛知県立農業大学校において、農業高校と農業大学の連携した「実学」を重んじた指導・教育及び海外大学と交流機会の創出など引き続き農業担い手の育成に尽力しました。

安城農林高校教諭、県農業教育共同実習所の指導主事・所長時には、農家宿泊実習や宿泊共同実習を通じて、就農に向けての意識付けや、大型農業機械の点検や安全運転などに重点を置き、免許の取得や実践的な技術力の指導に努めました。

渥美農業高校の教諭・農場長の時には、①農業高校生視察派遣事業（北海道）、②オランダ姉妹校派遣事業、③学習指導要領（農業）の改訂及び解説書編集、④「カクメロ」栽培技術普及推進など、農業後継者育成の視点から積極的に取り組みました。

さらに、同校の教頭・校長時には、「愛知県立渥美農業高等学校担い手育成基金」をJA、企業、篤志家に働きかけ創設し、同基金の活動により、同校が地域の農業後継者育成の拠点として象徴的かつ実践的な場になるような活動をスタートさせ、その活動は現在に続いています。

退職後は、愛知県立農業大学校において嘱託教員として勤務し、米カリフォルニア大学デービス校との交流事業を学生会主体で企画するよう指導し学生の企画力・国際感覚の向上に勤めるとともに、phメーターECメーターなどの活用による土壌分析技術の習得を始め、農業の現場ですぐに活用できる様々な農業技術の伝授に努めました。

伴氏の教え子の多くは、現在地区の農業後継者として巣立ち、現在では地域のリーダーとして活躍しています。本校同窓生（第二十三回生 園芸科卒）でもある伴 浩志先生の受賞に際し、心よりお祝い申し上げます。



表彰式の様子



受賞者記念講演の様子



表彰式後の伴先生

## 創立70周年記念事業

皆様方の温かいご支援に厚く御礼申し上げます。  
（募金額 八百九十九万円（振込手数料除く））  
記念事業内容

- 一 同窓会・PTA国際交流基金の補填
- 二 部活動等への援助
- 三 記念誌の発行



目録贈呈式並びに功勞者表彰式の様子

目録贈呈式並びに功勞者表彰式が、令和三年二月二十八日（日）田原市長山下政良様にご臨席いただき、本校体育館で行われました。はじめに創立七十周年記念事業実行委員長（同窓会長）より目録を授与されました。その後、本校の教育活動に多大なご支援を頂いた功勞者の皆様に感謝状を贈呈いたしました。

### 御来賓（功勞者表彰）

- 渥美モータース 会長 鈴木喜玄様  
イノチオホールディングス 社長 石黒 功様  
愛知みなみ農業協同組合 代表 鈴木照彦様  
豊橋農業協同組合 代表 伊藤友之様  
前同窓会長 鈴木達司様

### マスコットキャラクター決定!!!

『ふぁにー』



### 名前の由来

渥農の校章である蜂と、農場、農場主を表す farm、farmers を掛け合わせてつくられた名前です！

キャラクターデザイン 2A 藤井琴未さん  
命名 2B 森悠貴くん